熱く　羽ばたけ　大潟っ子

白　鳥

校長通信
大潟村立大潟中学校
令和５年６月３０日（金）発行
NO.3　文責：小玉　克男

■　花苗定植、菜園植付が行われました！

６月８日（木）の６校時、プランターへの花苗の植え付け、学校敷地内の菜園への枝豆とサツマイモの植え付けが行われました。

□プランターへの花苗定植

本校では、以前から「一人一プランター」として花苗の定植を行い、水やりや雑草取りなどの作業を体験する学習を行ってきています。今年度は、１年生がマリーゴールド、２年生がベゴニア、３年生が日々草を、それぞれ２本ずつプランターに植え、校門から昇降口までの通路脇に並べています。プランターには、植えた人のネームプレートを付けているので、自分のプランターの花に責任をもって取り組んでいます。

私（小玉）が平成８年度に本校に赴任したとき、すでに一人一プランターの活動は始まっていました。右の写真は平成12年度のもので、プランターを旧校舎の昇降口前に並べていました。校長室にある資料を探してみたところ、平成５年度に、「花いっぱい運動」の一環としてこの「一人一プランター」の活動が始まっているようです。そう考えると、この活動も３０年目を迎えることになります。大潟中学校の伝統の一つとして、今後も継続していきたいと思います。

平成12年度の「一人一プランター」

□菜園への苗の植え付け

プランターへの花苗の定植終了後、菜園への枝豆の種まきとサツマイモの苗の植え付けを行いました。割り当ては、各学年とも枝豆とサツマイモを２列ずつです。本校の生徒はこのような作業に慣れているようで、とても意欲的に取り組み、作業もスムーズに進みました。さすが大潟村の子どもたちです。

この学校菜園の取組は、特定できる資料を探すことはできませんでしたが、昭和の時代から始まっているようです。菜園活動も本校の特色ある伝統的な取組です。

□水やり作業

私が最も驚いているのは、植え付け後の水やりや草取りなどへの取組が、大変立派だということです。今年度は、体育祭のときに分けた縦割りの色別グループで、毎朝７時45分から８時10分までの間に水やりをしています。この朝７時45分に集まる、というのは、いつもは８時過ぎに登校する生徒にとっては大変なことです。しかし、この水やりの当番になった生徒は、ほぼ遅れることなく集まり、自分で仕事を見つけ、一生懸命世話をしています。こういう姿から、大潟中に引き継がれてきた開拓者精神や、苦労を辞さない勤労精神を感じることができます。また、異年齢集団での活動は、生徒同士の絆づくりや自己有用感の醸成に効果的であると言われていますので、今年度の縦割りでの活動の成果を検証していく予定です。そして、委員会活動を機能させるなどして今年度の一人一プランターや菜園での活動がより充実したものとなるようにしていきたいと思います。

■　情報モラル教育の推進

本校では、秋田県教育委員会から「ＩＣＴを活用した授業改善支援事業」の指定を受け、１人１台端末（タブレット）を授業に積極的に取り入れ、生徒が「分かった」「できた」と実感できる授業づくりに取り組んでいます。県内で本校ほどタブレットを授業で活用している中学校はほとんどないと思います。さらに、日常的にタブレットを持ち帰り、学習に利用しています。また、昨年度の校内アンケートでは、パソコンやスマートフォン、ゲーム機など、インターネットにつながる端末を所持している生徒の割合は９０％を超えている、という状況でした。インターネットによる詐欺被害やネットいじめなどのネットトラブルは、本校では確認されていませんが、未然防止の取組として情報モラル教育を継続的に推進していきます。

□ＰＴＡ研修会、あきた県庁出前授業「インターネットの健全利用」

７月５日（水）は、ＰＴＡ授業参観日です。授業後に予定されているＰＴＡ研修会では、秋田県教育庁生涯学習課の方を講師として、「インターネットの健全利用」と題しての講話を聞く機会を設定しています。併せて、当日の午前中には生徒向けの講話を、全校生徒と大潟小の５、６年生が聞くこととしています。生徒向け、保護者向けと、内容を変更してお話ししていただきます。各ご家庭でも、この講話を基にしてインターネットの健全な利用についてご配慮くださいますよう、よろしくお願いします。

スマホを使い続けると、成長期の脳はどうなるのか

東北大学加齢医学研究所では、平均年齢11歳の子どもたち223人を３年間追跡調査することで、インターネットの使用と脳の発達について調べました。子どもたちのインターネット使用習慣を７段階の項目(1:機器を持っていない/2:全く使用しない/3:まれに使用する/4:週に1日使用する/5:週に2～3日使用する/6:週に4～5日使用する/7:ほぼ毎日使用する)で聞きました。同時に言語能力に関する知能検査を行ないました。そして、脳の発達を調べるために、ＭＲＩを用いて、子どもたちの脳の写真を撮影しました。３年後に同じ計測を行なった結果、インターネットをたくさん使っていた子どもたちほど、３年間の言語能力の発達が小さく、幅広い範囲における脳の発達にも悪影響が見られました。発達に悪影響が見られた脳領域には、認知機能を支える前頭前野、記憶や学習に関わる海馬のほか、言葉に関係する領域、感情や報酬を処理する領域などが含まれています。どれも私たちが生きる上で必要となる大切な機能です。特に衝撃を受けたのは、インターネットを「ほぼ毎日使用する」と回答した子どもたちの脳の発達は、ほとんどゼロに近い数値となっていたことです。つまり、インターネットを毎日使っている子どもたちは、３年間で脳が全く発達していなかったのです。例えば、中学校へ進学するときにスマホを買ってもらった子どもがいるとしましょう。もしこの子が、毎日スマホでインターネットを使用する生活を３年間続けてしまったら、周りの子どもたちが健全に発達を遂げていく中、この子の脳は小学校６年生の時点で発達が止まっています。つまり、中学校３年生の中に、一人だけ小学校６年生が紛れ込んで高校入試を受けているような状態になってしまうのです。

スマホは自己管理能力を鍛え前頭前野を育てる上で最高の教材です。多くの人が依存状態に陥ってしまうほど、魅力的な機能がたくさんつまったスマホを、もしも上手に使いこなすことができたら、ヒトはさらに進化することができるかもしれません。

※榊浩平(著)、川島隆太(監修)『スマホはどこまで脳を壊すか』(朝日新書)から引用